

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大阪バイオメディカル専門学校	平成16年3月30日	大塚 一幸	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話) 06-6251-8103				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人佐藤学園	平成16年3月30日	細川 智吉	〒542-0082 大阪府大阪市中央区島之内1-14-30 (電話) 06-6251-8103				
目的	専門分野で高い能力を発揮し、広い視野と豊かな人間性を備え、また地域並びに国に貢献する人材の育成を目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	バイオ学科	平成23年12月22日	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2550	1380	0	3480	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120人	107人	3人	4人	7人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業出席点および学期末試験ならびに実習成果等の学習状況を総合的に勘案して、学科担当講師が			
長期休み	■春季:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～9月7日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■春季:3月1日～3月31日		卒業・進級条件	各学年修了時において、講義科目、実験・実習科目ごとに規定された以上の単位を修得した上で、出席すべき授業日数及び各講義科目時数のそれぞれ3分の2以上出席していること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 学生本人へ担任から連絡を取り、面談等を実施し欠席理由の把握、対応策の検討を行う。場合によっては、保護者を含めた		課外活動	■課外活動の種類 各種ボランティア、環境活動、各種実験会の参加等 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 環境、医薬品、化粧品、バイオ、細胞医療、臨床などあらゆる分野の研究、品質検査等でバイオ技術者として従事する。 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 0 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	中級バイオ技術者認定試験、上級バイオ技術者認定試験、環境社会検定試験			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成27年4月1日時点におい 在学者 115名 平成28年3月31日時点にお 在学者 114名 ■中途退学の主な理由 経済状況の悪化による進路変更など		中退率	0.8 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)			
■中退防止のための取組 上記「長期欠席者への指導等の対応」に加え、定期会議における担任から学生状況の紙面および口頭での報告で情報共有を行っている。また、退学に繋がる危険のある学生、状況等については、他の講師からの情報も集約し、解決すべき問題は担任のみならず教職員全体として、問題解決に取り組んでいる。							
ホームページ	http://www.obm.ac.jp/						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業現場、業界団体等で求められる知識、技術との乖離がないか、また将来に向けて求められる知識、技術等を検証するため、本校校長の下に教育課程編成委員会を設置。年2回委員会を開催し、業界動向、意見を聴取し、本校カリキュラム、実習等授業内容の改善等に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校校長の下に教育課程編成委員会を設置し、委員会開催内容について推薦学科担当講師と共有し、カリキュラム、実習内容へ反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山内 弘	安全性試験受託研究機関協議会	平成27年4月1日～平成29年3月31日	①
浅野 裕三	株式会社ボゾ・リサーチセンター	平成27年4月1日～平成29年3月31日	③
待田 裕美	株式会社総合水研究所	平成27年4月1日～平成29年3月31日	③
大塚 一幸	大阪バイオメディカル専門学校 校長	平成27年4月1日～平成29年3月31日	
清水 涼子	大阪バイオメディカル専門学校バイオ学科 主任講師	平成27年4月1日～平成29年3月31日	
森 健一	大阪バイオメディカル専門学校教育部マネージャー	平成27年4月1日～平成29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、9月、2月に開催予定

(開催日時)

第1回 平成27年12月24日 15:00～16:00

第2回 平成28年9月16日 11:00～12:30

第3回 平成29年2月 開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

校内実習施設で扱える動物が1種のみのため、より大型の動物も実習することが就職後に有益との意見があり、中型の実習用動物を飼育、管理することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

推薦学科で教える技術が、どう実際の現場で活用できるのか。また、実習・演習等で学ぶ知識、技術はあくまで基本的なものであるため、最前線の現場で各企業が重要視する知識、技術の習得との乖離があることは否めない。そこで、基本・最新を問わず各企業が重要視している知識、技術の習得を目的とし、連携企業等の協力の下、校内および校外における実習・演習等を実施する。また、社会人にとって必要不可欠な人間力や礼儀などを身につける機会としても重要な位置づけにある。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業等で必要とされる知識・技術の習得および社会人として必要不可欠な人間力や礼儀等を身につける。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
動物実験実習	動物実験を科学的、倫理的に遂行させるため、実験動物学基礎ならびに動物実験の倫理について理解することを目的とする。	株式会社ケー・エー・シー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修等は、教員に対して、現在就いている職、または将来就くことが予想される職にかかる職務の遂行に必要な知識、技能等を習得させることにより、その職務の遂行に必要な教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

(2) 研修等の実績

- ①専攻分野における実務に関する研修等
 H27年4月 日本組織培養学会主催 細胞培養基盤技術コース
 H27年6月 千里ライフサイエンス技術講習会
 H28年7月 細胞培養学会参加 等
 ②指導力の修得・向上のための研修等
 H27年7月 中堅教員研修会

(3) 研修等の計画

- ①専攻分野における実務に関する研修等
 H28年10月 日本組織培養学会主催 細胞培養基盤技術コースⅡ
 H28年11月 千里ライフサイエンスセミナー
 H29年3月 日本再生医療学会総会 等
 ②指導力の修得・向上のための研修等
 H28年5月 アクティブラーニング検討会
 H28年7月 キャリア・サポーター養成講座
 H28年11月 指導力向上セミナー 等

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、フィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・教育理念を定められているか。・学校の特色が明確であるか。等
(2) 学校運営	・運営方針は定められているか。・意思決定システムは確立されているか。等
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、育成人物像は、その学科に対応する業界人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。・カリキュラムは体系的に編成されているか。等
(4) 学修成果	・資格取得率の向上が図られている。・退学率の低減が図られているか。等
(5) 学生支援	・学生相談に関する体制が整備され、有効に機能しているか。等
(6) 教育環境	・施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。等
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集は適切に行われているか。・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。等
(8) 財務	・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。・予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。等
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の順守と適切は運営がなされているか。・個人情報に関し、その保護のための対策が採られているか。等
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設や活用した社会貢献を行っているか。等
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

個人情報への取り組み、規定等も整備されてくることを望むとの意見があり、教職員への教育のみならず、学生に対しても個人情報が流出することによる損害等を具体的に指導するように授業内容の見直しを図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
浅野 裕三	株式会社ボゾ・リサーチセンター	平成27年4月1日～平成29年3月31日	企業等委員
待田 裕美	株式会社総合水研究所	平成27年4月1日～平成29年3月31日	企業等委員
飯野 修芳	大阪市中央区地域振興会	平成27年4月1日～平成29年3月31日	地域住民
森岡 聖子	主婦	平成27年4月1日～平成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ、毎年11月ごろ)

URL:<http://www.obm.ac.jp/about/history.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者への情報提供を行い、関係者よりフィードバックをいただくことで、より実社会のニーズに応じた学生指導を図るため、各種情報提供を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・学校概要
(2) 各学科等の教育	学科紹介、施設・設備
(3) 教職員	学科長紹介、obmの先生たち
(4) キャリア教育・実践的職業教育	資格サポートシステム、就職サポートシステム、インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	学科紹介、施設・設備
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費・各種制度、特待生制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校自己評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.obm.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程バイオ学科(昼間)) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			SHゼミ	組織内外から「信頼」される社会人を目指して聞く力・考える力・理解する力・協力する力などの『社会人基礎力』を身につけることを目指す。	1 通 2 通	1 8 0	12	○			○		○		
○			就職対策	自己分析、企業研究からはじめ、希望する就職先の選定を行い、準備を行う。	2 通 3 通	1 2 0	8	○			○		○		
○			中級バイオ	バイオテクノロジー、生化学、微生物学、分子生物学、遺伝子工学の分野を網羅した中級バイオ技術者認定試験合格を目指す。	2 通	1 2 0	8	○			○		○		
○			上級バイオ	バイオ技術分野の基礎(核酸、タンパク質、機器等)から、応用(微生物・動物・植物バイオテクノロジー)に至る幅広い分野を網羅した上級バイオ技術者認定試験の合格を目指す	3 通	6 0	4	○			○		○		
○			生物学	生物学総合資料を中心に、ヒトを含めた生命体の構造と働きに焦点をあてて学び、実習に関連した生物学に関する基礎知識を身につける。	1 前	3 0	2	○			○		○		
○			化学	化学総合資料を中心に、生体を構成する無機化学・有機化学の基礎、及び溶液の濃度について学び、実習に関連した化学に関する基礎知識を身につける。	1 後	3 0	2	○			○		○		
○			生化学	生物を構成する細胞および組織の構造とそれを構成する基本的物質の生化学的性質、及び生体内における代謝、調節機能や恒常性のメカニズムについて学ぶことを目的とする	1 通 2 通	1 2 0	8	○			○		○		
○			社会環境学	複雑・多様化する環境問題を幅広く体系的に身に付け、環境社会検定試験(eco検定)合格レベルの環境問題に関する理解を主な目的とする。	1 前	3 0	2	○			○		○		
○			Quality control	品質管理に関する意識、能力、改善能力を身につけるため品質管理検定(QC検定)4級合格レベルの品質管理に関する理解を主な目的とする。	1 後	3 0	2	○			○		○		
○			Quality control II	品質管理に関する意識、能力、改善能力を身につけるため品質管理検定(QC検定)3級合格レベルの品質管理に関する理解を主な目的とする。	2 前	3 0	2	○			○		○		
○			科学一般	国際基本単位(IS)を始め、実験を行う上での必要な科学知識について基本的理解を得ることを主な目的とする。	1 通	6 0	4	○			○		○		

○		微生物学	微生物の基礎的事項と代謝経路について解説し、微生物そのものについて理解するとともに、我々の生活と微生物との関わりについて、基本的理解を得ることを主な目的とする。	2前	30	2	○			○		○	
○		生物工学	細胞、遺伝子、免疫系、培養、精製など生物工学の基礎および、バイオテクノロジー応用医薬品などバイオメディカル分野への応用について理解を得ることを主な目的とする。	2後	30	2	○			○		○	
○		バイオ英語	生物学総合資料、化学総合資料を中心に実習やそれに関わる機器類を含めた用語、英単語の解説を行い、基本的用語の理解を得ることを主な目的とする。	1通・2前	90	6	○			○		○	
○		実践英語	実験に用いる試薬、機器類、キットに添付されている資料をテキストとし、その日本語訳と操作方法の理解、それを元としたプロトコル作成を主な目的とする。	2通	120	8	○			○		○	
○		医薬品概論	「医薬品とは何か」、「新薬開発とはどういうことか」を学ぶと同時に、生物学、化学、生化学などの知識が新薬開発のプロセスにどのように利用、応用されているか理解する。	2通	60	4	○			○		○	
○		分子生物学	バイオ技術者検定試験中級レベルの分子生物学・遺伝子工学の理解を主な目的とする。	2通	60	4	○			○		○	
○		バイオ機器基本操作実習	基本的な実験機器の操作や技術、実験ノートの書き方や実験データの解析法を学び、報告書を作成することを主な目的とする。	1通	90	3			○	○		○	
○		試薬調整・測定実習	緩衝液の性質及び調整法について学ぶ。また、物質の単離・精製法、検出・同定法、確認方法などを習得するとともに、実験の計画・実施、解析、報告する能力を養うことを目標とする。	1通	90	3			○	○		○	
○		顕微鏡学実習	水生プランクトンを始め細胞、組織標本の作製、染色法、観察像のスケッチを行うことで顕微鏡の原理や使用について習得することを主な目的とする。	1通	90	3			○	○		○	
○		微生物学実習	身近な落下細菌から微生物の単離、培地作製、培養、染色、観察などを行い、微生物の基本操作について学ぶとともにその技法について習得することを目的とする。	1通	90	3			○	○		○	
○		動物実験実習	実験動物の保定、投与、注射、解剖技術等の技能習得に加え、解剖実験動物取り扱い、動物愛護、倫理に関する知識の修得を主な目的とする。	2後	30	1			○		○	○	○
○		細胞培養実習	細胞について学び、細胞数算定や染色、標本作成、観察像スケッチを行うことで、細胞培養に関連した機器の使用法、技法について理解し、習得することを主な目的とする。	2通	60	2			○	○		○	
○		分析実習	各種の基本的な分析化学的手法について、その原理、利用法、技法について定性・定量実験を実践的に行うことで習得し、解析法、報告書作成することを主な目的とする。	2通	120	4			○	○		○	
○		再生医療実習	細胞・組織を扱う技術や観察用標本をつくる技法を習得する。また蛍光顕微鏡やフローサイトメトリー(FCM)などの細胞工学における先端機器の使用ができる。	2通	120	4			○	○		○	

○		免疫学実習	抗体の性質、機能について理解し、ELISA法をはじめとした免疫学的測定実習を通して、免疫学についての包括的な知識の理解や技術の習得、及び論文の作成を行う。	1通	180	6			○	○	○						
○		HPLC実習	緩衝液、サンプルの調製をはじめ、HPLC機器の原理、利用法、技法について学ぶ。実践的にサンプルを測定行うことで、分析化学的手法の基本操作の習得を主な目的とする。	2前	60	2			○	○	○						
○		遺伝子工学実習	PCR法や制限酵素処理法など基本的な遺伝子工学実習を通して、分子遺伝学に関連する分野についての包括的な知識の理解や技法の習得、報告書作成を主な目的とする。	2後	60	2			○	○	○						
○		たんぱく質工学実習	タンパク質の精製、確認、解析を通じて、タンパク質の性質と実験原理についての理解や技法の習得、報告書作成を主な目的とする。	2前	60	2			○	○	○						
○		卒業研究I	各自で研究テーマを定め、遂行するための計画作成、実験技術の研鑽、得られた結果から科学的に解析する力を体得する。加えて論文を執筆・提出し、研究発表を行う。	3通	360	12			○	○	○						
○		卒業研究II-1	各自で研究テーマを定め、遂行するための計画作成、実験技術の研鑽、得られた結果から科学的に解析する力を体得する。加えて論文を執筆・提出し、研究発表を行う。	3通	180	6			○	○	○						
○		卒業研究II-2	各自で研究テーマを定め、遂行するための計画作成、実験技術の研鑽、得られた結果から科学的に解析する力を体得する。加えて論文を執筆・提出し、研究発表を行う。	3前	180	6			○	○	○						
○		インターンシップ実習I	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	360	12			○	○	○						
○		インターンシップ実習II	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3通	360	12			○	○	○						
○		学内インターンシップI	長期休暇期間中の実験、実習を通じて実践力を高め、研究者としての実践力を身につける。	3前	270	9			○	○	○						
○		学内インターンシップII	長期休暇期間中の実験、実習を通じて実践力を高め、研究者としての実践力を身につける。	3後	270	9			○	○	○						
	○	インターンシップA	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3後	90	3			○	○	○						
	○	インターンシップB	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3後	90	3			○	○	○						
	○	インターンシップC	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3後	90	3			○	○	○						

		○	インターンシップD	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3 後	9 0	3			○	○	○	
		○	インターンシップE	企業等での研修を通じて、実践力を高め、社会人となる準備とする。	3 後	9 0	3			○	○	○	
		○	就職指導	就職希望先のエントリーを始め、履歴書、実習報告書の作成、面接の模擬練習を行い、志望する企業の内定を目指す。	2 後 3 通	1 8 0	12	○		○		○	
合計					40科目	4,860単位時間(208単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
履修※3年次は選択科目より2科目以上選択※卒業年次の後期科目は、自主選択「	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。